

(19) Japan Patent Office (JP)
(12) Unexamined Japanese Patent
Application KOKAI Publication (A)

(11) Patent Publication
S 62-170228

(51) Int.Cl.4
A61B 5/02

(43) Published on July 27, 1987

(54) Title of the Invention: ELECTRONIC SPHYGMOMANOMETER

(21) Japanese Patent Application No. S61-10981

(22) Filing Date January 23, 1986

(72) Inventor Keiji YAMAGUCHI

818-10, Kitayabe-cho, Shimizu-shi

(71) Applicant Terumo Corporation

44-1, Hatagaya 2-chome, Shibuya-ku,
Tokyo

(74) Agent Yasunori OTSUKA, Patent Attorney

Claim 1. An electronic sphygmomanometer comprising a clocking device outputting time information; a memory adapted to store a plurality of blood pressure measurement data sets each consists of measured systolic blood pressure, diastolic blood pressure and the number of pulses and time information, received from said clocking device, indicating when the blood pressure measurement is performed; a printer outputting measurements or said blood pressure measurement data stored in said memory in a predetermined format; and output instructing means for causing said printer to output said blood pressure measurement data, characterized in that

said electronic sphygmomanometer further comprises detecting means for detecting proportion of the amount of said blood pressure measurement data stored in said memory after the latest blood pressure measurement data among said blood pressure measurement data output by said printer to the capacity of said memory; and notifying means for notifying, upon storing the present or next blood pressure measurement data, outside when said detecting means detects that said memory is fully occupied by said blood pressure measurement data to be stored after said latest blood pressure measurement data is stored therein.

⑯ 公開特許公報(A) 昭62-170228

⑰ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑱ 公開 昭和62年(1987)7月27日

A 61 B 5/02

3 3 8

B-7046-4C

審査請求 未請求 発明の数 2 (全16頁)

⑲ 発明の名称 電子血圧計

⑳ 特 願 昭61-10981

㉑ 出 願 昭61(1986)1月23日

㉒ 発 明 者 山 口 慶 二 清水市北矢部町818番地10

㉓ 出 願 人 テルモ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号

㉔ 代 理 人 弁理士 大塚 康徳

明 細 書

1. 発明の名称

電子血圧計

2. 特許請求の範囲

(1) 時期情報を出力する時計部と、血圧測定に係る最高血圧値と最低血圧値及び脈拍数と前記時計部からの血圧測定の日時情報とからなる血圧測定データを複数記憶可能な記憶部と、測定結果或いは前記記憶部に記憶されている前記血圧測定データとを所定の書式で印刷する印刷装置と、該印刷装置に前記血圧測定データの出力を促す出力指示手段とを備えた電子血圧計であつて、前記記憶部の容量に対する前記印刷装置により印刷された前記血圧測定データのうちの最新血圧測定データ以降に前記記憶部内に記憶された前記血圧測定データの値を検出する検出手段と、該検出手

段により前記記憶部内に今回、或いは何回かの血圧測定結果である血圧測定データを記憶するときに前記記憶部が前記最新血圧測定データ以降に記憶された前記血圧測定データにより一杯になることを検出したとき外部に報知する報知手段とを備えることを特徴とする電子血圧計。

(2) 所定の書式は血圧測定データをトレンドグラフで印刷することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子血圧計。

(3) 時期情報を出力する時計部と、血圧測定に係る最高血圧値と最低血圧値及び脈拍数と前記時計部からの血圧測定の日時情報とからなる血圧測定データを複数記憶可能な記憶部と、測定結果或いは前記記憶部に記憶されている前記血圧測定データとを所定の書式で印刷する印刷装置と、該印刷装置に前記血圧測定データの出力を促す出力

指定手段とを備えた電子血圧計であつて、前記記憶部の容量に対する前記印刷装置により印刷された前記血圧測定データのうちの最新の血圧測定データ以降に前記記憶部内に記憶された前記血圧測定データの量を検出する検出手段と、該検出手段により前記記憶部内に今回、或いは次回、血圧測定結果である血圧測定データを記憶するときに前記記憶部が一杯になることを検出したとき前記最新の血圧測定データ以降に記憶された前記血圧測定データにより自動的に前記記憶部内の血圧測定データを前記所定の書式で印刷装置に印刷する印刷手段とを備えることを特徴とする電子血圧計。

(4) 所定の書式は血圧測定データをトレンドグラフで印刷することを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の電子血圧計。

前記或いは自動的に印刷等を実行し、測定データの振替を余裕に於て電子血圧計を提供することにある。

Ⅱ. 発明の構成

上記目的を達成するために、本発明は以下の様な構成からなる。

即ち、時刻情報を出力する時計部と、血圧測定に係る最高血圧値と最低血圧値及び脈拍数と前記時計部からの血圧測定の日時情報とからなる血圧測定データを複数個記憶可能な記憶部と、測定結果或いは前記記憶部に記憶されている前記血圧測定データとを所定の書式で印刷する印刷装置と、該印刷装置に前記血圧測定データの出力を促す出力指定手段とを備えた電子血圧計であつて、前記記憶部の容量に対する前記印刷装置により印刷された前記血圧測定データのうちの最新血圧測定

3. 発明の詳細な説明

I. 発明の背景

(1) 技術分野

本発明は血圧測定に係る測定データを記憶する機能と、測定データを印刷する印刷装置とを有する電子血圧計に関するものである。

(2) 先行技術及びその問題点

従来、この種の電子血圧計は測定データの記憶容量の限界により一杯になったときに最も古い測定データが消去され、新しいデータの記憶領域を確保していたため、印刷等の手段によつて記録されずに廃棄されてしまう危険性があつた。

II. 発明の目的

本発明は上記従来技術に鑑みなされたものであり、その目的は記憶部に記憶された測定データが一杯になったときに、印刷等の記録を促す通知機

データ以降に前記記憶部内に記憶された前記血圧測定データの量を検出する検出手段と、該検出手段により前記記憶部内に今回、或いは次回、血圧測定結果である血圧測定データを記憶するときに前記記憶部が前記最新血圧測定データ以降に記憶された前記血圧測定データにより一杯になることを検出したとき外部に通知する通知手段とを備える。

また、所定の書式は血圧測定データをトレンドグラフで印刷することが望ましい。

更に、時刻情報を出力する時計部と、血圧測定に係る最高血圧値と最低血圧値及び脈拍数と前記時計部からの血圧測定の日時情報とからなる血圧測定データを複数個記憶可能な記憶部と、測定結果或いは前記記憶部に記憶されている前記血圧測定データとを所定の書式で印刷する印刷装置と、

該印刷装置に前記血圧測定データの出力を伴う出力指定手段とを備えた電子血圧計であつて、前記記憶部の容量に対する前記印刷装置により印刷された前記血圧測定データのうちの最新の血圧測定データ以降に前記記憶部内に記憶された前記血圧測定データの量を検出する検出手段と、該検出手段により前記記憶部内に今回、残りは次回、の血圧測定結果である血圧測定データを記憶するときに前記記憶部が一杯になることを検出したとき前記最新の血圧測定データ以降に記憶された前記血圧測定データにより自動的に前記記憶部内の血圧測定データを前記所定の書式で印刷装置に印刷する印刷手段とを備えてもよい。

また、所定の書式は血圧測定データをトレンドグラフで印刷することが望ましい。

IV、発明の具体的な説明及び作用

図1は本発明の装置が格納されているROMである。8は装置、9は装置8に圧入された空気を減圧する排気バルブ、11はCPU7の制御で装置8内の空気を排気する排気バルブ、14は加圧ポンプ10及び排気バルブ11を駆動制御する駆動部、15は測定結果をプリントするプリンタ、16は測定結果を表示する表示部である。

また、CPU7には、CPU7の動作タイミングクロックを発生するクロック17とCPU7の制御手段や処理経過、測定した血圧値などの測定結果を保持、記憶するメモリ18、時計機能を持ち、測定に係る時間や日付データを出力するタイマ19及び本実施例の動作を制御するための各スイッチ20～24が設けられている。また、これらのスイッチには図8への加圧開始、測定開始を指示する加圧スイッチ20、プリンタ15によ

り、紙の送り量に従つて本発明に係る実施例を詳細に説明する。

第1図は本実施例の電子血圧計のプロブロック図である。

図中、1は装置各部に電源を供給する電源、2は図8の装置8に接続されている血管から発生する音及び振動を検出するマイクロホン、3はマイクロホン2で検出された信号を波形状形、増幅するフィルタアンプ、4はフィルタアンプ3及びアンプ6よりのアナログ信号をデジタル信号に変換するA/D変換部、5は図8内圧を検出する圧力検出部、6は圧力検出部5で検出され、電気信号に変換して出力された信号を増幅するアンプ、7は本実施例の全体を制御するCPUであり、7aは測定結果を一時的に記憶する待記憶記憶部である。また、7bは後述するフローチャート処理のプロ

セスメモリ18内に記憶されている血圧測定データのグラフ印刷を指示するグラフ印刷スイッチ21、装置8内の空気の排気量を指示する排気スイッチ22、プリンタ15によるメモリ18に記憶の測定値を印字する排気スイッチ22、プリンタ15によるメモリ18に記憶の測定値を印字する測定値印刷スイッチ23、記憶処理のモードを決定するモード切り換えスイッチ24がそれぞれ接続されており、CPU7は各スイッチ入力に対応して後述する各処理を実行する。

また、このモード切り換えスイッチ24の切り換えは、例えば本実施例の電子血圧計を個人的に使用している場合等において、他人が血圧測定して得られた血圧測定データを記憶する必要はないから、このとき、このモード切り換えスイッチ24を「OFF」状態として血圧測定データの記

憶処理をしない様にCPU7に知らせる。またこのモード切り換えスイッチ24が“Q.M.”の時には、自動記憶モードとなり、血圧測定結果得られた血圧値は自動的にメモリ18内に記憶されることになる。

また、メモリ18の測定結果の格納領域の詳細を図2図に示す。

図中、100は測定データを格納するデータ記憶部であり、データ記憶部100は合計M個のセルより構成され、各セルは最新データが格納されているセル位置を示すフラグF₁とグラフ印字を行った時点の最新データが格納されているセル位置を示すフラグF₂を設けてあり、フラグF₁が“1”のときにこのセルに格納されている血圧測定データが一番最新のデータを意味する。即ち、新たに血圧測定をした場合にはこのフラグF₁を

検出して“1”であることを検出したセルの次のセルに今回測定した血圧測定データを格納することになる。また、フラグF₂が“1”のときにはこのセルに格納されている血圧測定データまでは印刷されたことを示し、新たに印刷するときには、フラグF₁が“1”のセルから記憶部に格納されているデータを全て印刷することになる（途中、グラフ印字スイッチ21が押下されなければ）。このフラグF₁とF₂が同一のセル位置にあり、ともに“1”のときは、血圧測定データはメモリ18内で一杯であることを意味する。

またTは測定時刻及び日付けを記憶する時刻記憶領域、Sは測定した最高血圧値を記憶する最高血圧記憶領域、Dは測定した最低血圧値を記憶する最低血圧記憶領域、Pは測定した脈拍を記憶する脈拍記憶領域をそれぞれ示す。

また、図中、151は測定データの格納されているセルの個数を示すデータセフトレジスタを示し、以下152は測定して各セルに記憶されている最高血圧値の総和を記憶する最高血圧合計レジスタSA、153は測定して各セルに記憶されている最低血圧値の総和を記憶する最低血圧合計レジスタDA、154は測定して各セルに記憶されている脈拍数の総和を記憶する脈拍数合計レジスタPA、155は各セルに記憶されている最高血圧値の平均値を記憶する平均最高血圧レジスタSM、156は各セルに記憶されている最低血圧値の平均値を記憶する平均最低血圧レジスタDM、157は各セルに記憶されている脈拍数の平均値を記憶する平均脈拍数レジスタPM、158はプリンタ15へのプリントセル数を記憶する印字数レジスタ、159はプリントアウト

して最高血圧値の総和を記憶するプリンタ最高血圧合計レジスタSA、150はプリントアウトした最低血圧値の総和を記憶するプリンタ最低血圧合計レジスタDAをそれぞれ示す。

以上の様な構成から成る本実施例の電子血圧計の動作処理の一例を図3図～第8図に示すフローチャートを参照にして説明する。

第3図は、本実施例のメインフローチャートである。また、以下のフローチャートでF₁はモード切り換えスイッチ24の状態を示すフラグで“1”のときに自動記憶モードを、“0”のとき記憶しないモードを意味する。また、F₂はメモリ18内の血圧測定データの格納状態を示すフラグであり、“1”のときに一杯であることを、“0”のときにまだ空いている箇所があることを示すものとする。

まず、ステップS100で圧力検出部5のゼロ調整及び電線1の電圧チェック等の初期設定を行う。電線電圧不足の場合には(電線1として電線を使用した場合には放電が進み、電圧が規定より低下している場合には)表示部15の不図示のブザーを鳴らし、報知するとともに、その旨を表示部15に提示する。

初期設定が終了するとステップS110、140、180にてグラフ印字スイッチ21、モード切り換えスイッチ24、又は加圧スイッチ20の入力を持つ。グラフ印字スイッチ21が入力されるとステップS120の後述するグラフ印字処理を実行し、ステップS140に進む。ステップS140でもード切り換えスイッチ24が操作されると、ステップS150の後述するモード切り換え処理を実行し、ステップS160に進

む。ステップS160で加圧スイッチ20が押下入力された場合には、ステップS170に進み、加圧設定スイッチ12に設定された加圧設定値を読み込む。そして続くステップS180で駆動部14を制御して排気バルブ11を閉め、ステップS190で加圧ポンプ10を作動させ、続くステップS200で圧力検出部5よりの脈管8内圧を測定し、加圧設定値に達するのを待つ。加圧の途中で排気スイッチ22を“ON”するとステップS210よりステップS220に進み、CPU7は駆動部14を制御し、排気バルブ11を開放し、脈管8内の空気の排気を行い、ステップS310に移る。

脈管8内圧が設定値に達したらステップS200よりステップS230に進み、加圧ポンプ10を停止させる。加圧ポンプ10の停止後、脈

管バルブ9より流量に空気が漏れることによる脱圧が始まり、ステップS240の測定に入る。最高血圧、最低血圧値の測定及び脈拍の測定はマイクrohホン2よりの血管管、コロトコフ管により公知の方法で行われる。そして最高血圧値(S)、最低血圧値(D)、脈拍(P)、及び測定時間(T)の測定が終了したら、ステップS250でこれらの測定値を一時CPU7内の測定値記憶部7aにストアする。そしてステップS260で駆動部14を制御し、排気バルブ11を開放し、脈管8内の空気を排気する。続くステップS270でこれら測定値に対して後述するデータ処理を行い、ステップS300で血圧測定結果を表示部15に提示し、続くステップS310、320、340、350にてグラフ印字スイッチ20のいずれかが入力されるのを待つ。従つて、この間、

表示部15には測定結果の処理結果が提示されている。

ステップS310でグラフ印字スイッチ21が入力された場合には、ステップS320と同様のグラフ印字処理を終了し、ステップS330で測定印字スイッチ23が入力された場合には、ステップS330の後述する測定値印字処理を実行し、ステップS340でモード切り換えスイッチ24が入力された場合には、ステップS150と同様のモード切り換え処理を実行し、ステップS350で加圧スイッチ20が入力された場合には、ステップS360及び370にてf2=“1”ならばグラフ印字を促す指示を止め、ステップS170に戻り、再び血圧等の測定を開始し、加圧スイッチ20が入力されていない場合には、ステップS310に戻る。

次に前述のステップS150のモード切り換え処理の詳細を第4図を参照して以下に説明する。

モード切り換え処理においては、ステップS151でモード設定フラグ f_1 を調べ、 $f_1 = "1"$ であればステップS152で $f_1 = "0"$ に切り換え、ステップS153で例えば表示部16に表示されていた自動記憶モードを消灯する。一方、ステップS151で $f_1 = "0"$ であればステップS154で $f_1 = "1"$ に切り換え、ステップS155で表示部18に自動記憶モードであることを表示する。

モード切り換えスイッチ24は測定に先立ち、測定結果がトレンドグラフ用のデータとして必要な場合に自動記憶モード(測定終了後、測定結果をメモリ18に自動的に記憶するモード)に設定し、測定結果がトレンドグラフ用のデータとして

不要な場合(例えば高血圧症者がメモリ18に記憶されているデータの所有者でない場合等)、自動記憶モードを解除するために用いる。

次にステップS270のデータ処理の詳細を第5図を参照して以下に説明する。

データ処理においてはまず、ステップS271でモード設定フラグ f_1 を調べ、自動記憶モード($f_1 = "1"$)であればステップS272に進み、そうでなければ、即ち、記憶しないモードのときにはこのルーチンからぬけだし、第3図のメインルーチンに戻る。ステップS272では、血圧等の測定値が正常に得られたか否かを調べ、正常に得られたならばステップS273に進み、そうでなければこのルーチンからぬけだし、メインルーチンに戻る。(従来より脈拍測定機能を有する血圧計においては、検出されたコロトコフ音の

個数が規定数より少ない等の理由により、脈拍測定が為されなかつた場合、表示部にエラー表示を行っていたが、このような場合にステップS272よりメインルーチンへ戻る。)

測定値が正常に得られたならば、ステップS273に進み、測定データがデータ記憶部100の各セル(1~M)に全て格納されている(一杯)か否かを調べる。具体的にはデータセットレジスタ151の保持値"N"がデータ記憶部100の総セル数"M"と等しいか否かを調べることにより行う。一杯でなければステップS275に進み、データセットレジスタ151を1つインクリメントし、ステップS276に進む。

ステップS273で一杯である場合には、ステップS274に進み、既に格納されている測定

データのうち最も古い測定データを消去する。即ち、最高血圧合計レジスタS A152、最低血圧合計レジスタD A153、及び脈拍数合計レジスタP A154から、現在、「フラグP」が"1"のセルの位置+1のセル位置に格納されている測定データの最高血圧値S、最低血圧値D及び脈拍数Pを算算する。そして、ステップS276に進む。ステップS276ではまず、現在「フラグP」が"1"のセルの位置+1のセル位置にCPU7内の測定記憶部7に記憶されている今回の各測定値(最高血圧値S、最低血圧値D、脈拍P、測定時刻T)を書き込む。続くステップS278で最高血圧合計レジスタS A152、最低血圧合計レジスタD A153及び脈拍数合計レジスタP A154に、今回測定の最高血圧値S、最低血圧値D及び脈拍数Pを加算し、ステップ

S279で、最高血圧合計レジスタSA152、
 最高血圧合計レジスタDA153及び脈拍数合計
 レジスタDA154の内容を、データセットレジ
 スタP151の保持値“N”で除算し、最高血圧値
 S、最低血圧値D及び脈拍数Pの各平均値を求
 め、これを平均最高血圧レジスタSM155、平
 均最低血圧レジスタDM156及び平均脈拍数レ
 ジスタPM157に格納する。

続くステップS280でフラグF₁のセフト位
 置を「現在のフラグP₁」のセフトされたセル位
 置+1のセル位置に変更する。そしてステップ
 S281では、フラグP₁のセフトされた位置
 と、フラグP₂のセフトされたセル位置が等しい
 か否かを調べ、等しければ、ステップS282に
 て、最後に記憶されたトレンドグラフ上の最も新
 しい測定日時よりも後の情報で、記憶手段が一

フラグP₁をセフトし、常にフラグP₂がセフト
 されたセルの次のセルに新たな測定データを記憶
 させる。

次に第3図のメインフローチャートのグラフ印
 字処理120の詳細を第8図のフローチャートを
 参照して説明する。

まず、ステップS121で、モード設定フラグ
 f₁が自動記憶モード(f₁ = “1”)にセフト
 されているか否かを調べ、自動記憶モードにセフト
 されていたらステップS122以下に進み、グ
 ラフ印字を行い、セフトされていなければグラフ
 印字を実行せずに、第3図のメインルーチンに戻
 る。ステップS122ではフラグf₂を調べ、
 f₂ = “1”(データが一枠)ならばステッ
 プS123でf₂ = 0に戻し、ステップS124に
 進む。

枠になった状態を示すためにフラグf₂を“1”
 にセフトし、ステップS284でその旨を表示部
 18にて報知する。(この報知を受けて、使用者
 はグラフ印字を実行するという判断がここにあ
 るのである。)一方、ステップS281で、フラ
 グP₁のセフトされたセル位置と、フラグP₂の
 セフトされたセル位置がまだ等しくなっていない
 場合は、続くステップS283でフラグf₂が
 “1”であるか否かを調べ、f₂ = “1”であれ
 ばステップS284で上記に報知を行い、f₂ =
 “0”ならばデータ処理を終了し、メインルーチ
 ンに戻る。

以上の処理により、測定データはセル1より順
 次格納され、M値のセルが満杯になると再びセル
 1に次の血圧測定データを格納していく。このと
 き、測定データの記憶と同時に、記憶したセルに

ステップS124では、データ記憶部100の
 フラグP₁がセフトされている、即ち“1”であ
 るセル位置を読み出し、CPU7の不図示のリー
 ドアドレスレジスタ(以下RAと称す)に格納す
 る。そしてステップS125で、読み出したフラ
 グP₁がセフトされているセル位置のP₂をセフト
 (“1”にする)する。続くステップS126
 で、印字数レジスタR158に初期値として
 “1”を格納し、ステップS127でプリント版
 最高血圧合計レジスタSa159、プリント最低血
 圧合計レジスタDa160をそれぞれ“0”にリ
 アする。次にステップS128で、測定データ
 の印字に先立ち、換算する第9図に40で示す、
 記憶の換算表示を印刷し、測定データの印刷準備
 を行う。

続くステップS129ではCPU7のRAで示

された位置のセル内の各測定データを読み込む。この時、不図示のスタート時刻レジスタ(TS)に測定月日を読み込む。そしてステップS130でこの測定データをプリンタ15よりプリントアウトする。このグラフ印字モードでの印刷例を図9図に示す。

測定データの印刷は縦軸が血圧値、横軸が測定時刻を示す時間軸として、グラフ上に順次測定時刻の新しいものより時系列に表示する。ここで、40は測定血圧値の最高血圧値41と最低血圧値42間を縦グラフをして表したものであり、測定時点での最高血圧値と最低血圧値とが一見して認識可能な様に表されている。縦軸には血圧値の外に脈拍数43を(拍/分)で表している。1図(1セル)分のプリントが終了するとステップS131に進み、プリント最高血圧合計レジスタ

Sa159及び、プリント最低血圧合計レジスタDa150にそれぞれプリントアウトした最高血圧値S、最低血圧値Dを加算し、ステップS132に進む。

ステップS132ではグラフ印刷スイッチ21が入力されているか否かを調べ、入力されていないればステップS133に進み、印字数レジスタa158の値とデータセットレジスタ151の値とが等しいか否かを調べる。等しくなければステップS134に進み、印字数レジスタa158を1つインクリメントし、続くステップS135でCPU7のRAを1つデクリメントする。そしてステップS136でRAが"0"か否かを調べ、"0"であればステップS137でRAをデータ記憶部100のセルの値"M"としてステップS129に戻り、次の(今回プリントした

1つ前の)測定データの印刷を行う。

ステップS132でグラフ印刷スイッチ21が入力されていた場合、ステップS133で印字数レジスタa158がデータセットレジスタ151と等しい場合には、測定データのプリントを終了するため、共にステップS138に進み、不図示のエンド時刻レジスタ(TE)にRAで示されたセルから測定月日を読み込んでから、図9図の45に示す縦軸の血圧値表示枠を印刷し、ステップS139でプリント最高血圧合計レジスタSa159、プリント最低血圧合計レジスタDa150をそれぞれ印字数レジスタ158の値aで除算し、プリントアウトした測定データの平均値を求める。そしてステップS140で、求めた平均値を図9図の46に示す如くキャラクタ印字し、47に示す如く、平均値算出区間としてTS

及びTEに格納された月日を印字する。そして処理を終了し、メインルーチンに戻る。

このようにグラフィック印刷出力することにより、元来常に変動している血圧値を正しく把握するために、数時間おき、又は1日おきに何回か測定した結果を読み重ね、血圧値の変動をみる事ができる。特に血圧値は心理状態によって敏感に変化し、緊張すると一時的に高くなる。このため患者が焦ったり、集団検診で血圧を測ると、それだけで高くなってしまい、測定者の通常の血圧値を正確に知ることはできず、緊張しやすいだけの患者に降圧剤を使用したりすれば、かえって弊を惹くことにもなってしまう。図9図に示す様に長時間の間における血圧値を測定し、同時に表示出力することにより、血圧値の変動を正しく容易に把握することができ、また、平均血圧値も表示

されるため、更に防鎖な料面を下すことができる。

次にステップS330の測定値印字処理を第7図のフローチャートを参照して以下に説明する。

このモードでは今回測定した血圧測定データのみをグラフィック印刷するモードである。

測定値印字スイッチ23が入力されると、まずステップS331で測定値記憶部7aより今回測定した測定データを読み出す。続くステップS332で、読み出した測定データに基づきキャラクタ印字する。

なお、本測定値印字処理による測定データプリントアウト例を第10図に示す。

本実施例においては、キャラクタ印字として、タイム19により計時している「測定日時データ」及び「最高血圧値」、「最低血圧値」、「脈

拍値」を数値印刷する。

続いてステップS333で第10図に82で示す最終の脈拍表示を印刷し、測定データのグラフ印刷準備を行う。そしてステップS334でモード設定フラグf1を調べ、自動記憶モード(f1="1")であればステップS335に進み、平均値の印刷を行い、そうでなければ平均値の印刷を回避し、ステップS336に進む。ステップS335では、平均最高血圧レジスタM155、平均最低血圧レジスタM156及び平均脈拍数レジスタM157に格納されている各平均値を、第10図の83に示す如く棒グラフの形で印刷する。

次にステップS338でステップS332で印刷出力した今回(直前)のデータを、第10図の84に示す如く棒グラフの形で印刷する。そして

続くステップS337で第10図の85に示す最終の血圧値表示枠を印刷して処理を終了し、メイン処理に復帰する。

尚、第10図の85に示されるのは、本実施例に使用される記録用紙に予め印刷されている記録用紙の横方向に縦軸(血圧値)を設けたとき、WHOの基準値の血圧値位置を示す真正血圧領域表示面である。

例えば、WHOの血圧領域としては、最高血圧値180mmHg以上、最低血圧値95mmHg以上のいわゆる高血圧領域、最高血圧値160mmHg～180mmHg、最低血圧値90mmHg～94mmHgの両条件がある境界域高血圧領域及び最高血圧値139mmHg以下、最低血圧値89mmHg以下の正常血圧領域等が定められている。

次にステップS300の測定値表示処理を第8

図のフローチャートを参照して説明する。

測定値表示処理においてはまず、ステップS301でモード設定フラグf1を調べ、自動記憶モード(f1="1")であれば、ステップS302に進み、表示部16内の不図示の最高血圧表示部、最低血圧表示部及び脈拍表示部にて、各血圧情報の平均値と今回の測定値を交互に表示し、そうでなければ(f1="0")ステップS303に進み、今回の測定値を各表示部に表示する。ステップS302にて平均値を表示させる場合、表示値が平均値であることを知らせるためのマーク等を同時に表示させ、測定値を表示中は、同マークを消す様にする。

以上述べた如く、本実施例によれば、血圧測定に係る最高血圧値、最低血圧値、脈拍数及びそれぞれの平均値を測定日時と合わせてトレンドグラ

アでプリントアウトすることにより、見やすく、かつデータの保管もしやすくなる。また、メモリ内の測定データが一杯になったときにはその旨を外部に、例えば表示器にその旨を表示したり、ブザー等の音響的手段をもつて報知することにより、誤つてデータを消去することなくなる。

また、以上の実施例では、メモリ内にデータが一杯になったときには外部に報知させる機能を有した電子血圧計を説明したが、例えばデータが一杯になると自動的に印刷する機能を付けてもよい。

以下、メモリ内の各血圧測定データが一杯になったことを検知すると自動的にメモリ内の各血圧測定データを印刷する他の動作処理を第11図～第13図を参照にして詳細に説明する。

第11図は、この場合のメインフローチャート

ステップ5270'のデータ処理について第12図を参照にして説明する。このデータ処理ルーチンで前述の実施例のそれと(第5図)と違ふ点は、ステップ5281'でF₁とF₂が等しい、即ち、一杯であることを判断すると即、ステップ5282'でグラフ印刷することにある。また、この様することによりメモリ18内の血圧測定データが一杯であると判断したときに即プリントアウトすることになる。

また、第13図のグラフ印刷処理についても同様であり、このルーチンにプログラムが移行すると、まずステップ5121'でモードフラグF₁を見て、“1”(自動記憶モード)か“0”かを判断し、“1”のときには即、以下の各ステップの処理をする。ここで、第8図のそれはメモリ内にデータが一杯かどうかを判断していたが、第

である。

このフローチャートは前述までに説明した第3図のメインフローチャートとほとんど同じであるが、ステップ5350'で加圧スイッチ20が“ON”のときにアラグF₂がどの様な値をしているかを判断せず、③に移る。これはデータが一杯になったことにより、自動的に印刷する場合であり、外部にその旨を報知する必要がないのは、自動的に印刷処理をすることにより、報知の役目をするためである。

その後の各処理は同じであり、第3図と重複するので省略する。

この第11図のフローチャートで第3図のフローチャートと違う部分は前述したものの他に、ステップ5270'のデータ処理部とステップ5125'のグラフ処理である。よつて、まずス

13図の場合はその処理をしない点にある。

その他の処理は第3図と同じであり説明を省略する。

またこの印刷処理の例は前述の実施例と同じで、第9図、第10図に示す通りである。

以上述べた如く、本実施例によれば、メモリ内の記憶されている血圧測定に係るデータが一杯になったときに直ちにその血圧測定データをプリントアウトする処理をすることにより、血圧測定データの保管性は極めて高くなる。

また、本実施例の電子血圧計を個人防に使用している場合において、他人が使用する場合においては測定結果のデータを記憶しないモードに設定することにより不要なデータがストアされずのみ、混乱を招くことがなくなる。

更に、印刷出力した測定データは自動的に記憶

部より消去されるかたちとなるために記憶部を効率的に活用することが可能となる。

また、本実施例でのグラフィック印刷の出力順序は測定時向を避ける方向に出力していたが、これに限定されるものではなく、またメモリ18内の測定データの格納状態も第2図に示す様なものに決定されるものではない。

更に本実施例で血圧測定データが一杯であることを検知、又は目的的に印刷する場合を次の血圧測定結果をストアするときに格納場所がない時に説明したが、今回測定した血圧測定データはCPU7の測定値記憶部7a内に一時的に記憶されているわけであるから、測定終了した時点において格納場所が無いときに同様の処理をしてもよい。

V. 発明の具体的な効果

第11図は他の実施例のメインフローチャート。

第12図、第13図は各処理のフローチャートである。

図中、1…電源、2…マイクローホン、3…フィルタアンプ、4…A/D変換部、5…圧力検出部、6…アンプ、7…CPU、7a…測定値記憶部、7b…ROM、8…制御部、9…高圧バルブ、10…加圧ポンプ、11…排気バルブ、12…加圧設定スイッチ、13…高圧電圧器、14…騒動部、15…プリンタ、16…表示部、17…クロック、18…メモリ、19…タイマ、20…加圧スイッチ、21…グラフ印字スイッチ、22…排気スイッチ、23…測定値印字スイッチ、24…モード切り換えスイッチである。

以上述べた如く、本発明によれば、血圧測定に係る最高血圧値、最低血圧値及び脈拍数と測定日時からなる血圧測定データをトレンドグラフにて出力することにより、その保管や管理がし易くなる。

また、血圧測定データが記憶させる記憶部が一杯になったことを外部に検知又は一杯になったことを検知したら直ちに血圧測定データを印刷することにより、血圧測定データの保守性は極めて高くすることが可能となる。

4. 図面の簡単な説明

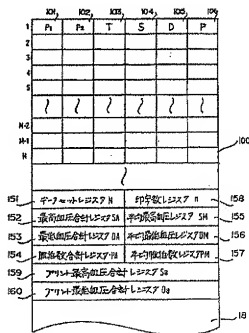
第1図は本実施例の電子血圧計のブロック図。

第2図は血圧測定データの格納状態を示す図。

第3図は本実施例のメインフローチャート。

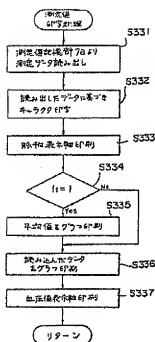
第4図～第8図は各処理のフローチャート。

第9図、第10図は印刷例を示す図。

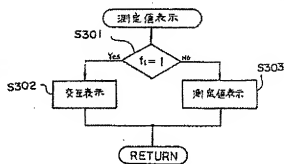


第2図

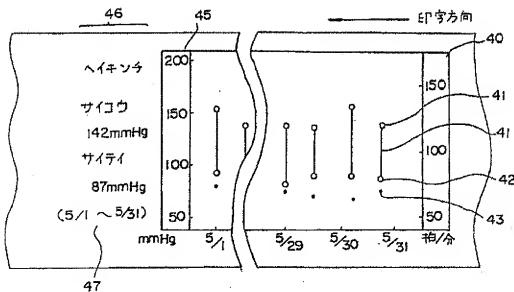
第 7 図



第 8 図



第 9 図



第13 図

